

- ・留学期間：2 年次 夏期
- ・所属学科：総合社会学科

私は前々から海外の文化や生活に興味があり、実際に海外にも行きたいと思っていた。そこで、大学が行なっている留学や異文化交流、海外ボランティアなどを聞きに行く中でこのプログラムを知った。このプログラムには語学学習の他にもさまざまなアクティビティがありとても魅力的に感じた。このプログラムを通じて海外の文化に触れ、人々と交流することと自分の英語力を試したいという理由から参加することにした。

事前に準備したこと

留学へ行く準備は 5 月から始めた。一番初めに、パスポート申請・航空券の購入・クレジットカードを作った。航空券は、簡単なルートで乗り換えの時間も余裕を持って移動できる方を選ぶのが一番良い。私の場合初めて海外に行く機会だったので、少々高くてもより安心できるルートを選んだ。クレジットカードは、万が一現金が無くなってしまうことを考えて作った。

私は留学全体を通して、この事前準備が一番大変だったように思える。マギル大学からのメールや先生からの情報は毎回目を通して、その都度紙に書き出すなど覚えておくことが必要である。また期末試験直後から出国するので、カナダに持って行く荷物などは事前に少しずつ準備しておくべきである。

楽しかった英語の授業

英語の授業は 5 クラスほどに分かれ、1 クラス約 20 人の学生が集まって一緒に勉強する。クラスの分け方は事前のテスト結果から英語力のレベルごとに決められていた。授業の流れは、始めにリスニングをして問題を解き、3、4人でディスカッションをし、解答を一緒に考える。その後、先生から解答を聞き、2人組になって聞き取った内容について英語で話すというのが多かった。内容はカナダにまつわるもの、例えばメープルシロップや伝統料理、動物などで、英語の勉強をしながらカナダのことも知ることが出来る。また、分からない単語や難しい文章があるときは辞書を使うとともに先生や他の学生に聞くことも大切である。分かりやすい単語に直すなど、理解できるように教えてくれる。また、そのようにコミュニケーションを取る方が、英語を理解しやすく感じ、友達を作る機会にもなった。席は毎回違うところに座るようになっていたので、クラスメイト全員と会話をすることができた。

また、発音の授業も週に一回行われる。通常の英語の授業とは違う先生が教えてくれ、モニター(授業や午後のアクティビティに参加してくれる現地の学生さん)も授業に参加する。簡単な英単語や文章を使って発音の違いを聞きとり、声に出して言い分ける練習をした。また、この発音の授業では毎回課題が出され、自分の発音を録音してパソコンかスマートフォンから提出した。通常の授業でもそうだが、基本的に課

題はパソコンから提出することが多かった。学生寮に自由に使えるパソコンはあり、友達から借りることも出来ると思うが、使い勝手に不安な人はパソコンを持っていくと良いと思う。

寮での生活

EVO と呼ばれる学生寮での生活はとても過ごしやすかった。基本的に 2 人部屋で、それぞれの部屋にベッド・クローゼット・机・イス・トイレ・シャワー・洗面台・電子レンジ・冷蔵庫などがある。その他にも寮には、映画鑑賞や料理を作れる場所、パーティールーム、ジム、室内プール、勉強やパソコンをするスペース、卓球やビリヤードをする場所もあるので、寮の中だけでも楽しめる。洗濯はランドリールームで専用のカードを作り利用していた。食事は朝・昼・晩それぞれ決まった時間にビュッフェ形式が提供された。座る席は自由で、レジデンス・モニター（寮での生活のサポート、夜のアクティビティで一緒に行動する現地の学生）も一緒なので、会話をしながら食事をした。

EVO の近くにはスーパーやドラッグストアがあり、日用品で必要なものは大体そこで買える。また、その他に必要なものでどこに行けば売っているのか分からない時や、体調を崩したときなどはレジデンス・モニターに相談すれば対応してくれた。

モンリオールを満喫する

午後は様々なアクティビティがあった。これはクラスで 5 人ずつぐらいのグループになり、1 人のモニターが付いて一緒に行動する。移動は大体徒歩か、OPUS カードを使いメトロやバスに乗って目的地まで行った。印象深かったアクティビティを 2 つ挙げる。一つ目は Old Montreal である。その地域一帯がヨーロッパの雰囲気があり、スイーツの店やお土産屋さんが多い。またノートルダム大聖堂があり、写真では見たことがあったが実際に行くとその美しさに感動した。夜に行くとライトアップされ、昼間とはまた違った雰囲気が味わえる。あちこちでプロジェクションマッピングや音楽の演奏が行われ、歩いて景色を見ているだけでも感動する。

二つ目は Jean-Talon Market である。新鮮な野菜や果物が色とりどりに並べられ、メープルシロップやスイーツなども売られている。日本では見かけないような物も売られていた。お土産をそこで買う学生も多い。夕食の後もレジデンス・モニターと一緒に外へ出かけた。一週目はベーグルピクニック、レーザークエスト（体験型ゲーム）、ポーリングと決まっていたが、二週目以降はモニターによってフリータイムにしたり、出かける場所が違っていった。私のグループのモニターは、Poutine フェスティバルやスイーツ屋などによく連れて行ってくれた。毎回ロビーに集合し、基本的にグループ全員で行くが、自由参加なので断ることもあった。課題をしたいときや、疲れているときはモニターに伝えて断ることも大切である。アクティビティの時間は、観光や遊びに行ったりするわけだが、他の学生やモニターとラフに話せる時間でもある。授業のときはまた違って英語で談笑した。目的地までの道のりで、趣味や日本での普段の生活など様々なことを話した。相手の

人柄を知れる機会でもある。

プチ・ホームステイ体験

私はオプションで週末にホームステイ体験をした。受け入れてくれた家庭は、父・母・3人兄弟(長女、長男、次男)の5人家族で、会話をしている私がいまいち分からないというような反応をされると分かりやすく言いかえてくれたり、とても優しくかった。日本の文化に興味を持ってくれており、日本のバラエティ番組や食べ物などについて話した。土曜日の午後は、友人を家に招いてパーティーをするというので、私も参加した。家にはプールがあり、一緒に泳ぎながらバレーボールをしたり、料理を一緒に作ったりなど短い期間であったが様々なことを経験させてくれた。

ホームステイは受け入れてくれる家庭によって経験することも違って来るが、カナダの一般家庭の生活を知ることができる。私がお世話になった家庭では、家族全員で家事を協力していた。日本では多くの家庭で母親がご飯を作るので私はその光景に驚き、カナダの家庭の温かさを感じた。

留学を振り返って

私は元々英語が話せるわけではなく、留学中は英語が聞き取れなかったり、上手く伝えることが出来ないという事が多かった。だがその都度分かりやすい文章に直してもらい、上手く話せなくても頑張って聞き取るうとしてくれた。私は困っているときは素直に伝える事の大切さを知り、必ず誰かが助けてくれていたので、内気にならずもっと話しかけるべきだったと思う。今回の留学で現地の学生や、日本の他の大学から来ていた大学生たちと知り合うことが出来た。出会った人々はとても優しく、いつも私を助けてくれて本当に感謝の気持ちでいっぱいになった。これからも繋がり、また会いに行く日を想像しながらこれからも英語の勉強を続けていこうと思っている。これから留学に行こうと思っている人にも、その先での「出会い」を大切にしてもらいたい。私にとってはとても貴重で思い出に残る経験だった。